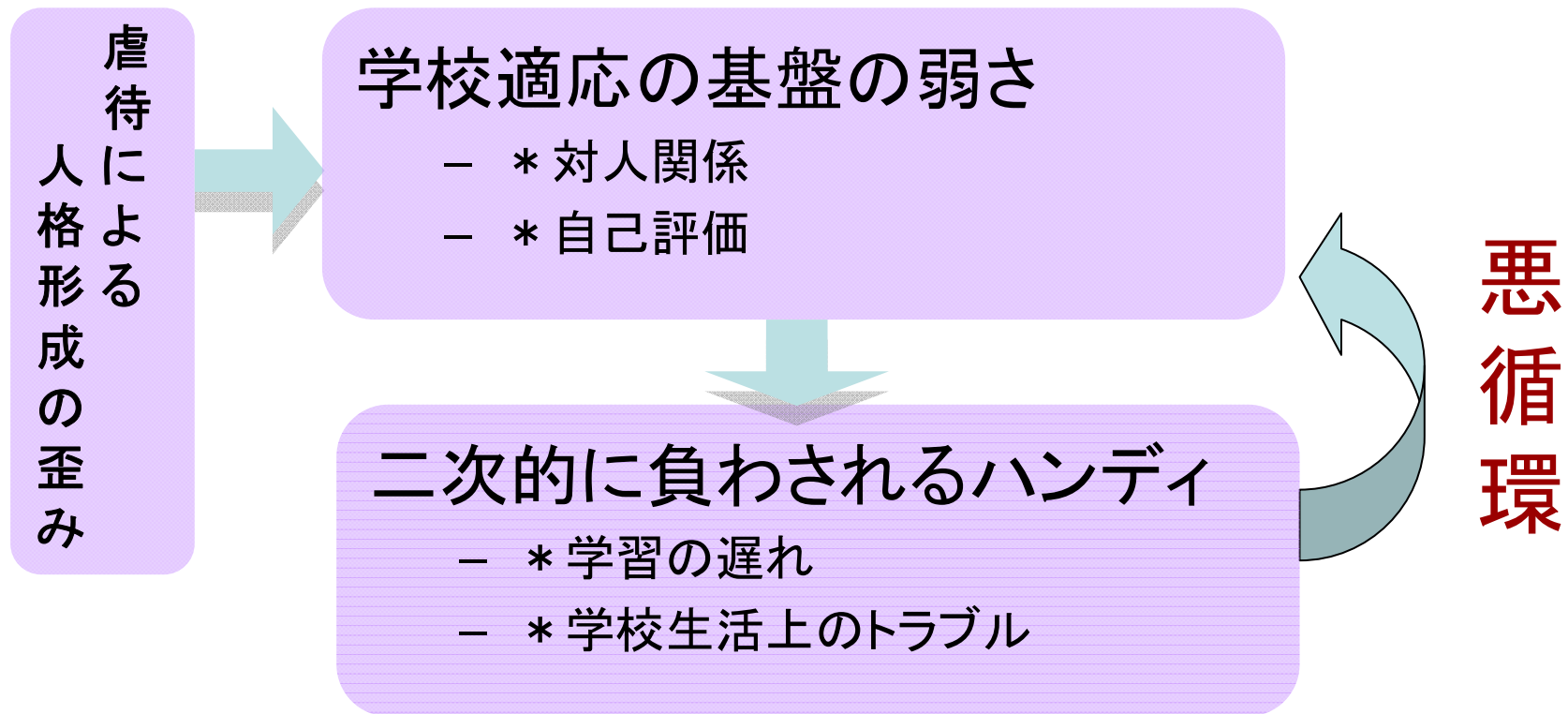


モジュール3

学校生活での現れ

虐待を受けた子どもの学校生活上のハンディ

学校生活への影響が現れてくる道筋



【 学校生活上のハンディ】

① 大人との安定した信頼関係を築けない

- 極端に甘えるかと思うと、些細なことでキレて攻撃的になる。
- 向かい合って話そうとしても視線が合わない。視線を合わそうとしない。
- 初対面の人に対してもべたべたと甘えていく(無差別的愛着)。
- 今までなついていたように見えていた相手に対して、手のひらを返すかのように無関心な態度をとる(分離不安の欠如)。
- 感情が不連続である。

【学校生活上のハンディ】

②家庭等で受けた虐待行為の「反復」

- 自分が保護者などからされてきたのと同じようなやり方で、他者への暴力や暴言、執拗な嫌がらせを繰り返す。
- わざと相手から怒られたり、嫌われるような言動を繰り返し、相手の怒りや暴力をひきだしてしまう。
- 他者との人間関係を切実に求めながらも、養育者との関係と同じような「支配－被支配」、「傷つけ－傷つけられる」関係性を築いてしまう。
- 年齢に見合わない強い性的関心や性的言動、及び性的逸脱行動、不適切な場面での自慰行為が見られる(性化行動)。

【学校生活上のハンディ】

③ 感情・衝動コントロールの困難さ

- 些細な注意でキレて、歯止めのかからない暴力を振るったり、モノをなげたり、壊したりする。
- 一度、興奮すると落ち着くまでにずいぶんと時間がかかる。
- いくら注意されても、遊びや生活の場面で順番を守ることができない。
- 自分のパターン、プランどおりにいかないとどうしてよいかわからなくなり、すぐにパニックを起こす。
- 頭を壁にぶつける、手をハサミで傷つける、リストカットなどの自傷行為を繰り返す。

【学校生活上のハンディ】

④学習の遅れや学習内容の定着の困難さ

- 何度教えてもすぐに忘れてしまい、学習内容が定着しない。
- 予測を立てたり、落ち着いて物事を考えたりすることが非常に苦手である。
- 机の周囲にもものが散乱していたり、ロッカーや鞆の中の整理ができず、毎日持ち物をなくす。

「被虐待児では、知的には境界線知能を示すものが多い。さらに知的なハンディキャップを勘案しても、なお知能に見合った学力を得ることが難しく、学習に大きな困難を抱えるものが過半数を占める。」

(杉山 登志郎 2006)

【 学校生活上のハンディ】

⑤食やモノへの異常なこだわり

- 給食を異常なほどがつがつと食べる。
- 机やロッカーの中に、食べ物の残りなどを溜め込む。粘土や色紙など、特定のものを異常なほどに集めている。
- 他の子どもの持ち物をしばしば盗ったり、家庭や学校からお金を持ち出して、大量にモノを買い込んだりする。

【学校生活上のハンディ】

⑥ 侵入的、攻撃的行動の強迫的な繰り返し

- わずかなスキを見つけては、教室などに侵入してモノをさわったり、盗ったり、壊したりを繰り返す。
- 強迫的に万引きや盗みを繰り返し、いくら注意しても叱責しても止まらない。
- 特定の子どもへのいじめや攻撃行為を執拗に繰り返す。
- 勝つことへの強迫的なこだわりがあり、ゲームなどでも負けることを受け入れることができない。
- 火遊びや放火を何度も繰り返す。

【学校生活上のハンディ】

学校生活上のハンディの現れと学校の対応

○学校生活上のハンディの現れ

- * さまざまな形の特徴的な行動が、虐待を受けた子どものすべてに現れるわけではない
- * 極端な逸脱行動が見られなくとも、虐待を受けていたというケースもある

○学校としては、

- * 虐待を受けた子どもが負うハンディについて十分に理解し、個々の児童生徒に応じた支援を行う
- * 目に見える逸脱行動等がないような場合にも、虐待を受けている子どもが示すサインを見逃さない

学校生活での現れ・気づき

- 「いつもと違う」、「何か不自然だ」を大切に
- 子どもと親の様子を総合的に見る
- 学校は「複眼」の組織
- 校内での情報交換が重要

【 学校生活での現れ・気付き 】 子どもの様子

①子どもの体に現れるサイン

- 不自然な外傷が見られる。
 - たばこの火を当てられたと見られる火傷、アイロンを当てられたと見られる火傷など、人から受けたと思われる火傷が見られる。
 - 指や腹などに紐の跡と見られるような傷痕がある。
 - 傷の理由を子どもに尋ねても、口ごもったり、明らかに不合理的な説明をする。
 - 短期間のうちに、不自然な箇所をあざ、骨折、火傷を繰り返す。
- これまでなかったような行為・行動やその跡が見られる。
 - 自傷行為や自傷行為の傷痕がある。
 - 爪かみやチック症状などの行為・行動が現れる。
- 服装・身なりにおかしな点が見られる。
 - 汚れた服をいつまでも着ていたり、身体がいつまでも汚れている。
 - 服装において、他のきょうだいと極端な差異が見られる。
- 体格・身体の変化に不自然な点がある。
 - 体格が明らかに劣っている。
 - 体重の極端な増減等、これまでになかったような身体の変化が見られる(長期休業期間の後など)。

【 学校生活での現れ・気付き 】 子どもの様子

②子どもの行動からー1

- 明らかな「問題行動」が現れる。
 - 家出や徘徊等を繰り返す。
 - 万引き等の問題行動を繰り返す。
 - 不登校・理由のはっきりしない遅刻や欠席が目立つ。
- 放課後いつまでも学校に残りたがる。家に帰りたがらない。
- 教職員との関係で、不自然な反応を見せる。
 - 反応に乏しく、どこを見ているのかよくわからない眼差しで、元気がない。
 - 叱られている時に話がきちんと聞けなかったり、まるで他人事のような態度をとる。
 - 大人の神経を逆撫でするような言動をわざととることが多い。
 - 指導時、過度に緊張し、全く視線を合わせない。
 - 教職員の顔色を極端にうかがったり、接触を避けようとする。
 - 教職員との人間関係がちょっとしたきっかけで急変する。

【 学校生活での現れ・気付き 】 子どもの様子

②子どもの行動からー2

- 子ども同士の関係で、トラブルを生じやすい。
 - 些細なことですぐに激怒したり、乱暴な行動を繰り返す。
 - 友だちなどと意見が食い違ったとき、すぐに暴力・暴言に訴える。
 - 極端に協調性がなく、周囲から孤立している。

- 以前と違った様子が見られる(時系列的な変化)。
 - 最近、何事も意欲が乏しく、集中できず、学力面での急な低下がみられる。
 - 以前に比べ、落ち着きがなく、すぐにわかるような嘘をついたりする。

- その他
 - 動物をいじめたり、虐待したりする。
 - 給食をががつ食べるなど、食べ物への強い執着がある。
 - 学校への提出物がほとんど提出されない。

【 学校生活での現れ・気付き 】 子どもの様子

③性的虐待の場合

- 性的なことに極端に興味を持ったり、極端に嫌う。
- 急に性器への関心を見せるようになった。
- 年齢に不釣り合いな性に関する知識をもっている。
- 不自然に性的な色彩を帯びた甘え方をしてくる。
- 絵画や作文などに性的関係・接触を暗示させるようなものがみられる。
- 服の着替えを極度に嫌がる。
- 他人の言動に過剰に反抗したと思ったら、同じ人に過度に依存したりといった「過剰な反抗と依存の両存」傾向が見られる。
- 自分の殻に閉じこもる。
- 自傷行為を行う。

【 学校生活での現れ・気付き 】

保護者の様子

○子どもとの関係で、

- 殴るなど子どもに暴力を振るう。大きな声で怒る等、威圧的である。
- 話に矛盾があったり、不自然な言い訳をする。
- 子どもに対して無関心。態度が冷たい。
- 子どもを放置して適切な世話をしない。病気やケガの時も、病院へ連れて行かない。

○保護者・家庭の状況一般として、

- 精神状態が不安定、いらだっている。
- 病気やアルコール・薬物依存がある。
- 生活のリズムが乱れていたり、家の中が乱雑・不衛生である。
- 経済状態について不安がある。
- 家族関係について不安がある。
- 親族・近隣との付き合いがなく、孤立している。

学校生活の流れの中で

- **入学式・始業式** → 式への参加や提出物の提出の状況
- **家庭訪問** → 家庭内の様子・子どもへの関心の程度
- **水泳指導** → 着替えへの抵抗・身体の傷の確認
- **長期の休み前** → 長期の休みへの抵抗
- **長期の休み明け** → 体重の変化
- **秋以降** → 学級集団からの孤立、季節変化への不自然な対応
- **学年を通じて** → 担任との関係

【参考】 堺市子ども虐待連絡会議・堺市保健福祉児童部児童家庭課編
『子どもを虐待から守るための支援(5)』(平成14年7月)